軽井沢シンフォニックコーラス
TUTTI 第６９号
2026.11.13

ブラボー隊 パートⅡ

柴　澄（ アルト ）

勇雅君が結婚することになりました。

二人のことは１０年前から、私は気付いていました。お相手は芸大卒の声楽家です。私達は後援会の役員ということで招待されました。

「１０月１７日 明治記念会館（富士の間）午後３時～６時半」とあります。さあ大変、何を着ていく、金額は、どうやって行く、あれやこれやと準備が大変です。招待された方も、膝が痛くて行きたいけど行けない人達が出てきました。バスをチャーターすることになりました。すると私達は責任者になりました。時間、集合場所、バス代金を連絡して当日を待ちます。

他人事なのに、なぜか自分の事の様に前日はドキドキして寝られませんでした。集合時間になっても、なかなか集まらず、Tel をしたり集金したりと大あわてです。でも予定通りバスは出発することができました。土曜日のお昼にもかかわらず、高速道路等はすいていて順調に進み予定時間よりも早く着くことができて安心しました。

明治記念館は以前行ったことがあり、芝生の庭園がきれいだったことを覚えています。着いて見ると昔と変わらず、きれいなお庭でした。早速芝生の上で皆で記念写真を撮りました。

受付が始まり席順を見ますと、なんと 160 名です。すごいと思いました。市長、県会議員、大学学長、熊谷市の社長等の名が連なります。

席に着いて開演を待ちます。予定時間より遅れています。祝辞が 5 名と続きますが、すでに 4 時半を回っています。帰りのバスは 7 時出発予定です。市役所の駐車場が午後 10 時に閉まってしまうのです。市長にお願いして 10 時以降も使えることになり一安心しました。運転手さんにも連絡して了解をもらいました。

会は盛り上がり、芸大出身者達ですから、歌う人、歌うグループとまるでコンサート会場のようでした。最後には第九を歌うことになり、会場の方も一緒に舞台に上がり歌いましょうと、私はお祝いの気持ちで一緒に舞台で歌いました。まさかのハプニングでした。

すでに 8 時半を回っています。やっとお開きになりバスに戻ります。帰りのバスは予定よりも多く乗り、お母様も乗せます。でも参列者に挨拶をしていてなかなか来ま

せん。迎えに行くと、あと 5 分、あと 5 分と、ようやく出発できたのは 9 時半を過ぎていました。

途中休憩もとらず、11 時にバスが着きました。私達は皆を無事に連れて行き帰ることが務めなので、ハラハラ、ドキドキしながらも楽しんで行って来ることが出来ました。皆から無事に終わって良かったね、と笑顔で喜んで頂き、私達も責任が果たせたとホッとしました。

おめでたい、大変なボランティアの一日でした。

虫むしムシ〜〜〜

岡田 弥生（ アルト ）

前号の白枝さんのカマドウマの話があまりにも怖ろしかったので、つい、虫について語りたくなりました。

東京都杉並区の生家の御不浄がまだ水洗ではなかった頃、そのじめじめと湿った場所に「ベンジョコウロギ」なるものがいて、やだなあと思った記憶がありますが、そのベンジョコウロギがカマドウマともシケムシとも呼ばれていて、「いっぱい」「ぴょんぴょん」するものだと思い知らされたのは、茂沢に移住してきてからです。築 40 年以上のわが小屋の床下は道具置き場になっていて、先住の方が置いて行ってくれた農具やら草刈り機やらが置いてありました。その扉を開けた時が、その「いっぱい」「ぴょんぴょん」の初体験でして、絶叫しつつ扉を閉めて、それから十年以上たちますが、以来、一度もその扉を開けていません。しっかり駆除して、そこの物入れを活用すればいいのですが、しかし、下手に彼らの楽園を刺戟して、「ここには住めないから、上の家の中に移動しよう」などということになったら大変だ、と思いまして、床下の倉庫など「ない」ものと思い定めています。

夏の間はかれらは家の中に入ってこないのですが、秋口になると、「寒くなって来たからこっちで暮らしてみようかな」とでも思うのか、視界の端になにやら動くものがあるなと気付いてそちらを見ると、カマドウマの弱弱しいのがすすすすと動いていたりします。ネコがそれを見つけると大喜び。近づいてちょっかいを出す。カマドウマが跳ぶ。ネコもっと喜んで追いかける。パン ピョン パンで気絶するカマドウマ。そのままにしておくと、おネコさまがそれを食べてしまうので、ネコより早く近づいてティッシュで回収します。殺戮現場を目撃していれば、回収もできるのですが、時として、床に、「脚」だけが転がっていることがあり、「あ〜〜　食べちゃったんだね〜」とちょっと嘆きます。その日は、ネコが顔を寄せてきて鼻チューをしようとしてきても、やんわりと拒むことにしています。

カマドウマは、好きではありませんが、静かだし、大繁殖さえしなければ、まあ、我慢できるのですが、もうどうしたって我慢できないのが、カメムシです。冬になり、薪ストーブを焚いて、室温が 25 度近くなると、ブーンとうるさい羽音を立てて飛び回り、天井からぶらさがっている照明にカン！と当たって落下したり、またブンブン飛んでぐるぐる回ってカーテンに止まったり。この「ぶーん」「カン！」が始まったら、とにかく絶対にこれを排除するまではあきらめません。そのままにしておいたら、眠っている間に枕元なんかにやってくるかもしれないと不安になるからです。

そのカメムシの排除の方法。「ガムテ」にくっつけて丸める、ティッシュでつかまえる、などいろいろですが、秒で悪臭を放ち、ティッシュ数枚分でもニオイが通過しますので素早さが勝負です。でも、壁ならともかくカーテンだったりすると、ぽろっと落ちてしまって取り損ねることもしばしばです。落ちた先がソファの裏だったりすると、またブンブン出てくるまで、気が気ではありません。

その「落下する」という状態を巧みに利用したのが、「愛子さんのペットボトル捕獲」でした。ペットボトルに少量の水を入れ、台所用の洗剤をちょこっと入れ、壁やカーテンや照明器具にとまっているカメムシのお尻の下あたりにペットボトルの口を当てます。するとカメムシがぽろっとペットボトルの中に落下するのです。接近を察知して飛び立ってしまわないように、すばやく接近、すばやく落下させるのがコツです。すばらしい捕獲方法なのですが、ペットボトルを次に使う時に蓋を取ると、たいそうなフレーバーが放たれるので、吸い込まないように注意が必要です。また、何日も同じペットボトルを使っていると、どんどんカメムシの死骸が溜まっていくので、見た目もおそろしいです。ということで、近頃は、ティッシュで捕獲→薪ストーブで火葬、となっています。もしも万が一、ティッシュを通して悪臭が指先についてしまった場合、水で洗っても石鹸であらってもニオイは落ちません。油性のもので拭きとる（ハンドクリームでもよし、食用油でもよし）と、びっくりするほどニオイがとれます。（その後、石鹸で油分を洗い流す）

ネコはカメムシと遊びません。一度、子猫の時代に、前足をぷるぷる振って、すごーくイヤそうな顔をしているのを見たことがありまして、どうやらカメムシに手を出して、臭い目にあったようなのです。ぶんぶん飛んでいるのを見上げて、その航跡を目で追ったりはしていますが、床に落ちてきたカメムシに近づくことはありません。よっぽど、臭かったんでしょうね。（どのネコもカメムシには手を出さないので、みなそれぞれに、臭い経験をしたのでしょう）

愛子さんがほいほいと壁のカメムシを捕獲している時、カメムシよりも長さが倍くらいの虫がいたのですが、愛子さんはその虫はとらないのです。「このムシは、カメムシをやっつけてくれるから、とらないの」と愛子さん。なんでも、そのムシはカメム

シに針をさしこんで体液をちゅうちゅうと吸うんだそうです。体液を吸い取られたカメムシはからっからになり、さわっても、もはやなんのニオイもしないというのです。

私もその「細長いムシ」をみつけても、放置するようにしています。

ある時、ほんとうに、そのムシがカメムシをつかまえて「ちゅうちゅう」している現場を目撃したからです。ネットで検索したところ、そのムシも実はカメムシの仲間だというからビックリでしたけど。

その現場をスマホで撮影もしました。そんな画像は見たくない、という方のために、編集後記の下に画像をつけますので、見たくない方は、見ないでくださいませ。

【編集後記】

☆「ブラボー隊」のパート 1 は、2026 年 1 月発行の TUTTI 61 号に掲載されています。（と、こんなふうにさらっとお伝えできるのも、村井さんのおかげです。「機関紙」のタグから「執筆者一覧」が見られるのですよ！）

バリトン歌手の原田勇雅さん、御結婚おめでとうございます。今回も臨場感たっぷり、果たしてバスは無事に市役所の駐車場に帰り着くのかとハラハラしました。

☆すてきな結婚式の話の後に虫の話でごめんなさい。

大林さんのお孫さんは虫博士で、「カメムシを襲うのは、カメムシの仲間のサシガメだ」と即答したそうです。いそいそと大林さんに写真を送ったところ、「こんな写真は初めて見ました」と大林さん。ちょっと鼻の穴がふくらんでしまいました。（岡田）

★虫が苦手な方もあろうかと小さな画像にしました。【制作部】

